

「入試改革」初年度

本日は進路説明会の開催に当たり、保護者の皆様にはご来校いただき、まことにありがとうございます。

埼玉県公立高校入試は現在の中学3年生が受検する令和9年度入試から大きく姿をかえます。「入試改革」初年度です。受検生に求められる力はこれまで以上に多様になります。これまでも繰り返し周知し、この後にも担当からお話をしますが、今回の改革で最も大きなポイントの一つが「面接」と「自己評価資料」が導入されることです。これまでは一部の学校のみで実施されていた面接がすべての受検生に課されることになりました。さらに、自分の中学校での活動や努力してきたことを自ら記入する「自己評価資料」の提出も全員に求められます。これは、単に学力検査の得点だけでなく、「自分の考えを伝える力」や「自分自身を表現する力」が評価されるということを意味しています。部活動や生徒会活動などの記録は、自分で自己評価資料に記入します。自分自身でそのような活動の成果や意義を語るができなければ、相手には伝わりません。その他にも、学力検査の解答方法の中心がマークシート方式となるなどの変更点もあります。ただ、日々の授業を大切にし、各授業の学習内容を身につけていくという本質は全く変わりません。変化を正しく理解し、自分に必要な対策を一つ一つ積み上げていくことが大切です。

先ほども申し上げた通り、今回が「入試改革」初年度です。変更点については、先輩たちが残した情報等がありませんから、皆さんが先駆者になります。私立高校の受験にしても、公立入試の変革による影響が1部あるのだと思います。生徒の皆さんに、不安や戸惑いがあるのが当然です。本日は、お手元の「進路の手引き」をもとに、3年生の先生方から具体的な手続きなどについて説明がありますが、今後も、進路決定に至るまで、担任を中心に個々の相談に寄り添ってまいります。

加えて、同じ先駆者である、ここにいる仲間とともに進んでいくことも大切です。「受験は団体戦」という言葉があります。受験会場で答案用紙に向き合うのは「一人」ですから、その場面だけをみれば「個人戦」かもしれません。それでも、互いに高め合い、共に頑張る仲間の存在は大きいものがあります。

本日ご来校いただきました保護者の皆さまも、見方を変えれば、団体戦の一員です。ただもちろん中心選手ではありませんから、お子さんが実力を発揮できるよう、支援の側に回り、様々な面からサポートしていただきますようお願いいたします。

お子さんのために、ご家庭も学校も全力で支えていきましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣